

令和4年度岡山県農林水産総合センター農業研究所試験研究課題評価結果票

<事前評価>

- 総合評価凡例
- 5 : 優先的に実施することが適当
 - 4 : 実施することが適当
 - 3 : 計画等を改善して実施することが適当
 - 2 : 実施の必要性が低い
 - 1 : 計画等を見直して再評価を受けることが必要

番号	R4-事前-1						
課題名	米価低迷下における高収益水田作営農モデルの確立						
課題の概要	県内では水田を水稲、麦、大豆の作付以外で有効活用している事例は少ない。そこで、水田における加工・業務用野菜、飼料用作物等を組合わせた高収益水田作営農モデルを策定する。						
評価結果	区分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	必要性	2人	3人	1人	0人	0人	4.2
	有効性	1人	3人	2人	0人	0人	3.8
	効率性・妥当性	0人	3人	2人	1人	0人	3.3
	総合評価	2人	3人	1人	0人	0人	4.2
助言・指摘事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・試験計画が少し曖昧な感じを受けるので、具体的に計画を立てて研究を推進することが望まれる。また、研究範囲が非常に広いので、ある程度内容を絞って行うことも考えてはどうか。 ・岡山県の将来ビジョン実現に向けて、重要な課題だと思う。現状を少し改善すれば達成できるモデルと、理想的なモデルの両方を立案して、短期的な目標と長期的な目標の両方を設定してはどうか。また、考案したモデルを現実のものとするには、多角的な検討が必要だと思う。データ解析から得られる結果を元に、様々なバックグラウンドを持つ方々と協議しながらモデルを完成させてほしい。 ・先駆的な取り組みで、実現の可能性が増せば、農業者の収益改善も見込まれる。 ・米の作付転換を進めてきたが、需給環境は改善せず、米価が大幅に下落している。高収益水田作営農モデルが確立できれば、県内で広く普及が見込まれるので、営農モデルの確立を急いでほしい。 ・総合評価は高く期待している。しっかり研究予算確保し日本の農業発展や改革に躍進願いたい。 						

注意事項

- ① 各評価委員の評価内容を基に、重複する評価内容を取りまとめて記載する等、簡潔にとりまとめてください。また、この資料は、HPで公表する予定ですので、特定の個人を指す事例や特許取得等に支障がある内容は表現を改める等、個人情報の保護や知的財産権の取得等に支障がないよう、配慮してください。
- ② 評価結果欄は全ての項目について、得点を付けた人数を記載し、平均点を少数第1位で記載してください。

令和4年度岡山県農林水産総合センター農業研究所試験研究課題評価結果票

<事後評価>

総合評価凡例 5：著しい成果が得られた 4：十分な成果が得られた
 3：一定の成果が得られた 2：見込んだ成果を下回った
 1：成果が得られなかった

番号	R4-事後-1						
課題名	気候変動に強い地域適応性水稻品種の選定						
課題の概要	本県に適応する高温登熟耐性を有し、県内広域での栽培が可能な気候変動に強い水稻品種を選定する。						
評価結果	区 分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	目標達成度	0人	1人	5人	0人	0人	3.2
	有効性(効果)	0人	2人	4人	0人	0人	3.3
	有効性(目的以外の成果)	0人	1人	5人	0人	0人	3.2
	効率性・妥当性(費用対効果)	0人	1人	5人	0人	0人	3.2
	効率性・妥当性(計画)	0人	1人	5人	0人	0人	3.2
	成果の活用・発展性	0人	1人	5人	0人	0人	3.2
	総合評価	0人	2人	4人	0人	0人	3.3
助言・指摘事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・気候変動(特に夏季の高温環境)に強い品種選定は重要であるので引き続き研究を進めてほしい。 ・栽培法と組み合わせ、得られた知見を十分に活用してほしい。 ・実際の栽培により、その効果を確認する必要がある。 ・高温耐性については、引き続き研究を続けてほしい。 ・総合評価は高く期待している。しっかり研究予算確保し日本の農業発展や改革に躍進願いたい。 						

番号	R4-事後-2						
課題名	樹勢の客観的評価に基づく「おかやま夢白桃」の安定生産技術の確立						
課題の概要	「おかやま夢白桃」の樹勢を評価する指標を作成する。さらに、樹勢が低下した「おかやま夢白桃」で樹勢を回復するための対策技術を明らかにする。						
評価結果	区分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	目標達成度	0人	3人	3人	0人	0人	3.5
	有効性(効果)	0人	3人	3人	0人	0人	3.5
	有効性(目的以外の成果)	0人	4人	2人	0人	0人	3.7
	効率性・妥当性(費用対効果)	0人	3人	3人	0人	0人	3.5
	効率性・妥当性(計画)	0人	3人	3人	0人	0人	3.5
	成果の活用・発展性	2人	2人	2人	0人	0人	4.0
総合評価	2人	4人	0人	0人	0人	4.3	
助言・指摘事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・研究成果を早急に現場に適用し、樹勢回復による連続出荷技術を開発してほしい。 ・「おかやま夢白桃」について、樹勢評価指標を作成し、樹勢低下の要因を特定した上で、対応策を提示できたことは素晴らしい。特に、現場ですぐに使える指標が明らかになったことは優れた成果だ。早期の普及を期待する。 ・根が浅くなり、樹勢が低下することなど、根本的な原因を突き止めた。土壌管理方法の一助となる。 ・清水白桃の出荷時期が前進化する中で、おかやま夢白桃の安定生産は重要となるので、生産現場への普及を急いでほしい。 ・総合評価は高く期待している。しっかり研究予算確保し日本の農業発展や改革に躍進願いたい。 						

番号	R4-事後-3						
課題名	アスパラガスの優良品種選定と早期立茎による安定生産技術の開発						
課題の概要	現主力品種の代替品種を選定する。また、選定した品種を用い、露地栽培で茎枯病対策に有効な早期立茎による安定生産技術を開発する。						
評価結果	区分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	目標達成度	1人	1人	4人	0人	0人	3.5
	有効性(効果)	0人	2人	4人	0人	0人	3.3
	有効性(目的以外の成果)	0人	2人	4人	0人	0人	3.3
	効率性・妥当性(費用対効果)	0人	2人	4人	0人	0人	3.3
	効率性・妥当性(計画)	0人	2人	4人	0人	0人	3.3
	成果の活用・発展性	0人	4人	2人	0人	0人	3.7
総合評価	0人	5人	1人	0人	0人	3.8	
助言・指摘事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の試験では茎枯病は発生しなかったが、実際現場では、非常に発生していると言われていたので、現地での茎枯病対策を徹底してほしい。 ・研究の目標は十分達成できた。西日本でアスパラガス生産が盛んに行われていることを考えると、岡山県としてどのような特色を作っていくかといった検討も今後、必要である。 ・成果の発展性が限定的ではあるが、興味深い研究といえる。 ・現行主力品種は入手困難となっており、代替品種の選定が急務となっていたが、優良品種2種を選抜できたことは、大きな成果である。 ・総合評価は高く期待している。しっかり研究予算確保し日本の農業発展や改革に躍進願いたい。 						

番号	R4-事後-4						
課題名	夏秋雨除けトマト栽培における秋期増収技術の開発						
課題の概要	秋期まで草勢を維持しやすい穂木・台木品種の組合わせ、着果管理法及び栄養管理法を明らかにし、秋期収量が増加する栽培技術を開発する。						
評価結果	区分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	目標達成度	0人	2人	4人	0人	0人	3.3
	有効性(効果)	0人	2人	4人	0人	0人	3.3
	有効性(目的以外の成果)	0人	2人	4人	0人	0人	3.3
	効率性・妥当性(費用対効果)	0人	3人	3人	0人	0人	3.5
	効率性・妥当性(計画)	0人	1人	5人	0人	0人	3.2
	成果の活用・発展性	0人	5人	1人	0人	0人	3.8
	総合評価	0人	5人	1人	0人	0人	3.8
助言・指摘事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・近年、夏季は非常に高温になり熱中症が心配されることから、労働分散につながる試験結果を現場に速やかに導入することが望まれる。 ・労働時間当たりの所得も示すと、生産者が技術を取り入れるかどうかの判断がよりしやすくなる。また、トマトの高所得、安定生産に向けて、一つずつ課題を解決して行って欲しい。 ・秋期の収量が増加して収益が上がるのが分かれば、農業者の収入増につながる。取り組む農家を増やすことが課題だと思われる。 ・現在の異常気象の中で秋期の増収は重要課題であり、大きな成果が得られた。 ・総合評価は高く期待している。しっかり研究予算確保し日本の農業発展や改革に躍進願いたい。 						

番号	R4-事後-5						
課題名	ドローンを利用した水稻生育診断の効率化による大規模水田作経営促進事業						
課題の概要	大規模水田作経営でも、高品質安定多収が期待できる栽培管理を実現するため、効率的かつ簡易な生育診断法を確立する。						
評価結果	区分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	目標達成度	0人	1人	5人	0人	0人	3.2
	有効性(効果)	0人	0人	6人	0人	0人	3.0
	有効性(目的以外の成果)	0人	5人	1人	0人	0人	3.8
	効率性・妥当性(費用対効果)	0人	2人	4人	0人	0人	3.3
	効率性・妥当性(計画)	0人	1人	5人	0人	0人	3.2
	成果の活用・発展性	0人	3人	3人	0人	0人	3.5
	総合評価	0人	4人	2人	0人	0人	3.7
助言・指摘事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・20日前のNDVI値が栄養指標値を越えていた場合の対処法については言及されていなかったが、これに関する対処法も模索してほしい。 ・スマート農業の普及拡大を図る上で、必要な研究であり、十分な成果が得られている。今後、生産者が栽培管理に活かせる情報をタイムリーに提供できる仕組みを構築する必要がある。 ・ドローンの活用は、他の品種や農作物について活用の可能性が広がると思う。今後の研究に期待する。 ・アケボノ以外の品種における生育診断技術の開発に応用できることが望まれる。 ・総合評価は高く期待している。しっかり研究予算確保し日本の農業発展や改革に躍進願いたい。 						

番号	R4-事後-6						
課題名	麦栽培における除草剤抵抗性スズメノテッポウ総合防除体系の確立						
課題の概要	晩生水稲後の麦作で、実用性の高い除草剤抵抗性スズメノテッポウの総合防除体系を確立する。						
評価結果	区分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	目標達成度	0人	3人	3人	0人	0人	3.5
	有効性(効果)	1人	2人	3人	0人	0人	3.7
	有効性(目的以外の成果)	1人	3人	2人	0人	0人	3.8
	効率性・妥当性(費用対効果)	0人	3人	2人	1人	0人	3.3
	効率性・妥当性(計画)	0人	2人	4人	0人	0人	3.3
	成果の活用・発展性	0人	4人	1人	1人	0人	3.5
	総合評価	1人	4人	1人	0人	0人	4.0
助言・指摘事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・スズメノテッポウの防除法を確立できたことは素晴らしいと思われる。逆転ロータリーの普及に向けて、取り組んでほしい。 ・化学農薬削減の重要性が、今後、更に増すと考えられるので、継続的に取り組んでほしい。当初の目標は十分に達成できたが、雑草の抵抗性を発達させないように、作用機作の異なる除草剤のローテーションについても検討してほしい。なお、稲わらのすき込みについて、後作の水稲への影響を確認する必要があるのではないか。 ・効果的な研究。農業者の悩みを解決するため、普及・定着の方法をより深く考えてほしい。 ・逆転ロータリーを用いた播種がワラのすき込み、砕土・整地に有効であり、水稲収穫後のワラ焼却への対策として活用できることは成果であるので、現場へ普及させてほしい。 ・総合評価は高く期待している。しっかり研究予算確保し日本の農業発展や改革に躍進願いたい。 						
番号	R4-事後-7						
課題名	準高冷地での「シャインマスカット」の安定生産技術の確立						
課題の概要	準高冷地では秋期の日照不足等、気象条件の影響で「シャインマスカット」が年により糖度不足になることがあるため、準高冷地でも安定して糖度上昇する栽培技術を確立する。						
評価結果	区分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	目標達成度	0人	2人	4人	0人	0人	3.3
	有効性(効果)	0人	2人	4人	0人	0人	3.3
	有効性(目的以外の成果)	0人	0人	6人	0人	0人	3.0
	効率性・妥当性(費用対効果)	0人	3人	3人	0人	0人	3.5
	効率性・妥当性(計画)	0人	2人	4人	0人	0人	3.3
	成果の活用・発展性	1人	1人	2人	2人	0人	3.2
	総合評価	1人	2人	3人	0人	0人	3.7
助言・指摘事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・秋期の日照不足が予想される時の対処法についての研究が望まれる ・気象データを用いて、糖度向上が停滞するリスクの高い地域を明確に示し、安定生産のために必要な対策を提示できたことは、大きな成果だと思う。本研究を実施した結果、新たに明らかになった課題については、継続して取り組んでほしい。 ・研究過程で見つかった新たに課題の解決に取り組んでほしい。 ・シャインマスカットの栽培期間の拡大は重要であるが、高品質安定生産のための課題解決に向け、引き続き研究をすすめてほしい。 ・総合評価は高く期待している。しっかり研究予算確保し日本の農業発展や改革に躍進願いたい。 						

番号	R4-事後-8						
課題名	枝豆新品種の栽培技術の確立とブランディング対策						
課題の概要	黒大豆枝豆用品種、「岡山SYB1号」の普及を図るため、「岡山系統1号」とのリレー出荷を可能にする作型及び良食味枝豆の生産技術を確立するとともに、優良系統種子の生産・供給を行う。また、これまでに開発した鮮度保持技術を実証するとともに、新品種の味等の特長を明らかにする。						
評価結果	区分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	目標達成度	0人	4人	2人	0人	0人	3.7
	有効性(効果)	0人	3人	3人	0人	0人	3.5
	有効性(目的以外の成果)	0人	4人	2人	0人	0人	3.7
	効率性・妥当性(費用対効果)	0人	3人	3人	0人	0人	3.5
	効率性・妥当性(計画)	0人	2人	4人	0人	0人	3.3
	成果の活用・発展性	1人	3人	2人	0人	0人	3.8
	総合評価	1人	4人	1人	0人	0人	4.0
助言・指摘事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・おかやま黒豆のブランド化には、必須の技術開発である。MA包装技術の普及を推進してほしい。 ・「おかやま黒まめ」のブランド化推進に大きく貢献する成果が得られた。経営上の効果についても情報があると、成果の活用がより進むのではないかと。 ・他の農作物への活用も期待され、評価できる。 ・研究成果は県下の枝豆生産農家に応用でき、出荷期間の拡大により農家所得の向上につながる。 ・総合評価は高く期待している。しっかり研究予算確保し日本の農業発展や改革に躍進願いたい。 						

番号	R4-事後-9						
課題名	水田転換畑における野菜安定生産のための排水対策技術選択手法の確立						
課題の概要							
評価結果	区分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	目標達成度	0人	3人	3人	0人	0人	3.5
	有効性(効果)	0人	3人	3人	0人	0人	3.5
	有効性(目的以外の成果)	0人	3人	3人	0人	0人	3.5
	効率性・妥当性(費用対効果)	1人	2人	3人	0人	0人	3.7
	効率性・妥当性(計画)	1人	2人	3人	0人	0人	3.7
	成果の活用・発展性	0人	5人	1人	0人	0人	3.8
	総合評価	2人	3人	1人	0人	0人	4.2
助言・指摘事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・水田転換畑における作物の生産には、排水対策は必須技術である。マニュアル化したことで、排水対策技術の選択手法が非常にわかりやすくなっている。 ・水田転換畑の排水不良対策に非常に役立つ成果が得られた。スマートフォンで手軽に使うためのアプリ化等も検討してほしい。 ・手法のマニュアル化に工夫が見られる。成果の普及に尽力願う。 ・タマネギ、キャベツ等の加工・業務用野菜の安定生産につながる技術であり、大きな成果である。 ・総合評価は高く期待している。しっかり研究予算確保し日本の農業発展や改革に躍進願いたい。 						

番号	R4-事後-10						
課題名	準高冷地に適した加工・業務用キャベツ安定生産技術の確立						
課題の概要	準高冷地の気象条件を活かした7～10月収穫の加工・業務用キャベツ栽培で、現状平均4.4t/10aの収量を、6tに引き上げる安定生産技術を確立する。						
評価結果	区分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	目標達成度	1人	2人	3人	0人	0人	3.7
	有効性(効果)	0人	2人	3人	1人	0人	3.2
	有効性(目的以外の成果)	0人	2人	4人	0人	0人	3.3
	効率性・妥当性(費用対効果)	0人	4人	2人	0人	0人	3.7
	効率性・妥当性(計画)	0人	2人	4人	0人	0人	3.3
	成果の活用・発展性	1人	3人	2人	0人	0人	3.8
	総合評価	0人	5人	1人	0人	0人	3.8
助言・指摘事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・大玉で裂球しにくい品種の選定は重要である。肥料の高騰が見られるので、堆肥や有機肥料の利用に関する研究も進めてほしい。 ・適切な品種と栽培法の組合せで、所得が向上することが示されており、十分な成果が得られた。しかしながら、慣行より多くの肥料が必要となるため、資材費の高騰や環境影響について、更に検討する必要があるのではないかと思う。 ・供給不足となる時期の品種や栽培技術などがわかり、今後の定着へ期待できる。 ・準高冷地での加工・業務用キャベツの安定生産のための品種、施肥などの栽培技術が明らかになり、県中北部での活用が期待できる。 ・総合評価は高く期待している。しっかり研究予算確保し日本の農業発展や改革に躍進願いたい。 						
番号	R4-事後-11						
課題名	農作物障害診断アシストシステム開発事業						
課題の概要	タブレットを用いた画像等による診断アシストツール及び診断事例、技能のWeb利用による即時情報共有システムを構築し、技術伝承をサポートするシステムを開発する。						
評価結果	区分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	目標達成度	0人	4人	2人	0人	0人	3.7
	有効性(効果)	0人	5人	1人	0人	0人	3.8
	有効性(目的以外の成果)	0人	4人	2人	0人	0人	3.7
	効率性・妥当性(費用対効果)	0人	5人	1人	0人	0人	3.8
	効率性・妥当性(計画)	0人	4人	2人	0人	0人	3.7
	成果の活用・発展性	1人	5人	0人	0人	0人	4.2
	総合評価	2人	4人	0人	0人	0人	4.3
助言・指摘事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・非常に素晴らしいシステムが開発されたと思います。普及員のみならず、営農指導員などにも利用できるようにしてほしい。 ・知識や技術を継承していく上で重要な取組だと思う。継続的なシステムの更新をお願いする。また、雑草についても、同様の仕組みを検討してほしい。 ・農業でのIT化は必須。指導技術の伝承やデータベース化を進めることは、栽培の向上にもつながる。さらなる発展が見込まれる。 ・診断アシストシステム・ツールの汎用化をはかり、JA営農指導員でも現場指導に利活用できるようにしてほしい。 ・総合評価は高く期待している。しっかり研究予算確保し日本の農業発展や改革に躍進願いたい。 						